学生支援の現場から

◆名古屋学院大学 将来志向とケア重視の両面をにらんだ学生支援のあり方

～自分発見型学生支援ネットの構築に向けて～

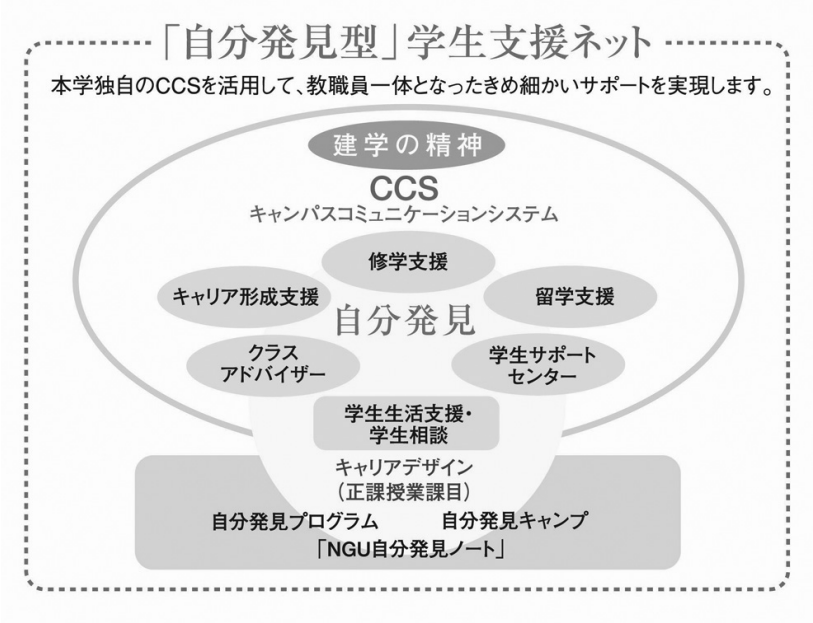
小林 甲一
（名古屋学院大学 学生部長）

本学は、「自分発見型学生支援ネットの構築に向けて―「キャリアデザイン」をプラットフォームとした新たな展開―」というテーマで二〇〇七年度の「学生支援GP」に選定された。これは、ここ数年重視してきた学生支援ネットワークのなかにキャリア形成支援による多様な学生のためのプラットフォームをつくることで、このネットワークを、学生が自分の将来に向けた課題に向き合おうとする場と機会に必要な支援やケアを提供できる「自分発見型」へと発展させようとするものである。

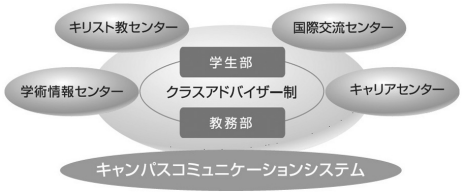
いま、大学で多様な学生に対する効果的な支援の提供を考えるとき、その多様さのなかで自分の将来に明確な意識をもつ「早熟な」学生とそうでない「未成熟な」学生のあいだの二極化が進んでいることが大きな課題となっている。この点は、キャリア形成支援に限らず、「意欲のある学生」と「そうでない学生」、「何にでも積極的な学生」と「そうでない学生」といった二極化も生み出し、修学支援や学生生活支援などのあらゆる面で対応の難しさを現出させている。

このことは、「学生支援」のあり方を新たな方向へと導く。「早熟な」学生にはその将来志向を根づかせるような、「未成熟な」学生には早い段階から個別ケアを重視した配慮が求められる。また、学生に支援を提供する現場でも、その自主性だけに依存した従来の〝メニュー提示・サービス提供型〟ではさほどの効果が期待できないし、大学の伝統的な〝指導型〟の手法に一定の限界があることも確かである。さらに、明確な将来志向をもつ学生であっても、いまの学生をそうした自分発見に導くには将来志向だけではなく丁寧なケアが不可欠である。つまり、これらの両輪を軸に、早い段階から時間をかけて多様なチャネルと多くのプロセスを経過する、継続的で包括的な学生支援が展開されなければならない。

自分発見とは、近年キャリアカウンセリングの分野でよく用いられる用語であるが、それを「学生が自分を理解し、自分の将来を見定めて自分の課題を克服しようとする自分を発見する」ことと捉えたい。これは、ただの「自分探し」ではなく、「社会や自分を取りまくものをしっかりと見つめ、自分を知る」ことである。人間存在としての学生が発見する自分には、強い自分もあれば弱い自分もある。大学での学生支援やその現場が、「将来志向」と「ケア重視」を兼ね備えたネットワークで、現代に生きる移行期の若者が自立した職業生活の形成へと成長するための重要なプロセスとなり、場となるよう心がけていきたい。



名古屋学院大学＜学生支援＞ネットワーク



キャリアセンターにて